

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成24年 4月～6月 実績

平成24年 7月～9月 見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 平成24年4～6月期実績及び平成24年7～9月期見通し
7. 調査時点 平成24年6月1日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合から＜減少・低下・悪化＞の割合を差し引いた値で、＜景気動向指数＞を表しています。DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

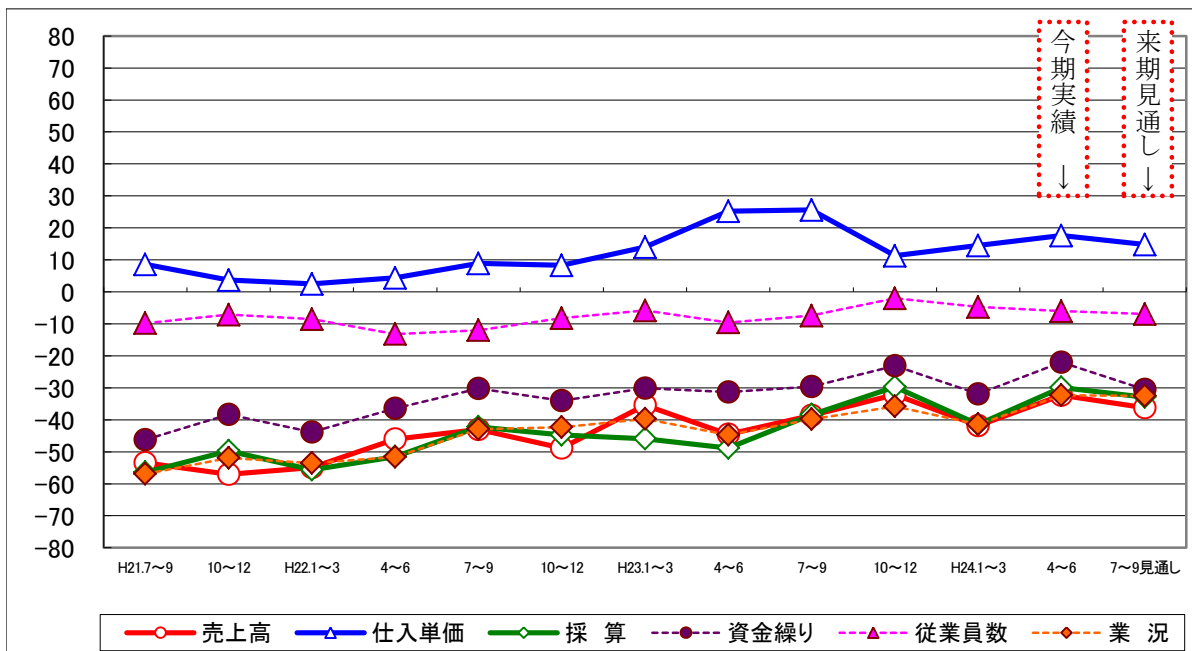
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学地域経済研究所 教授 南保勝氏

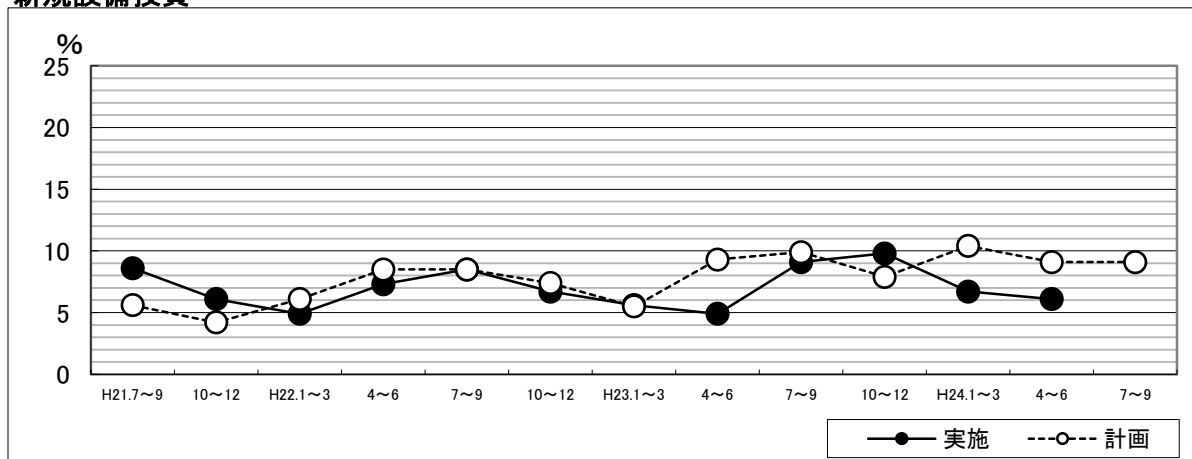
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

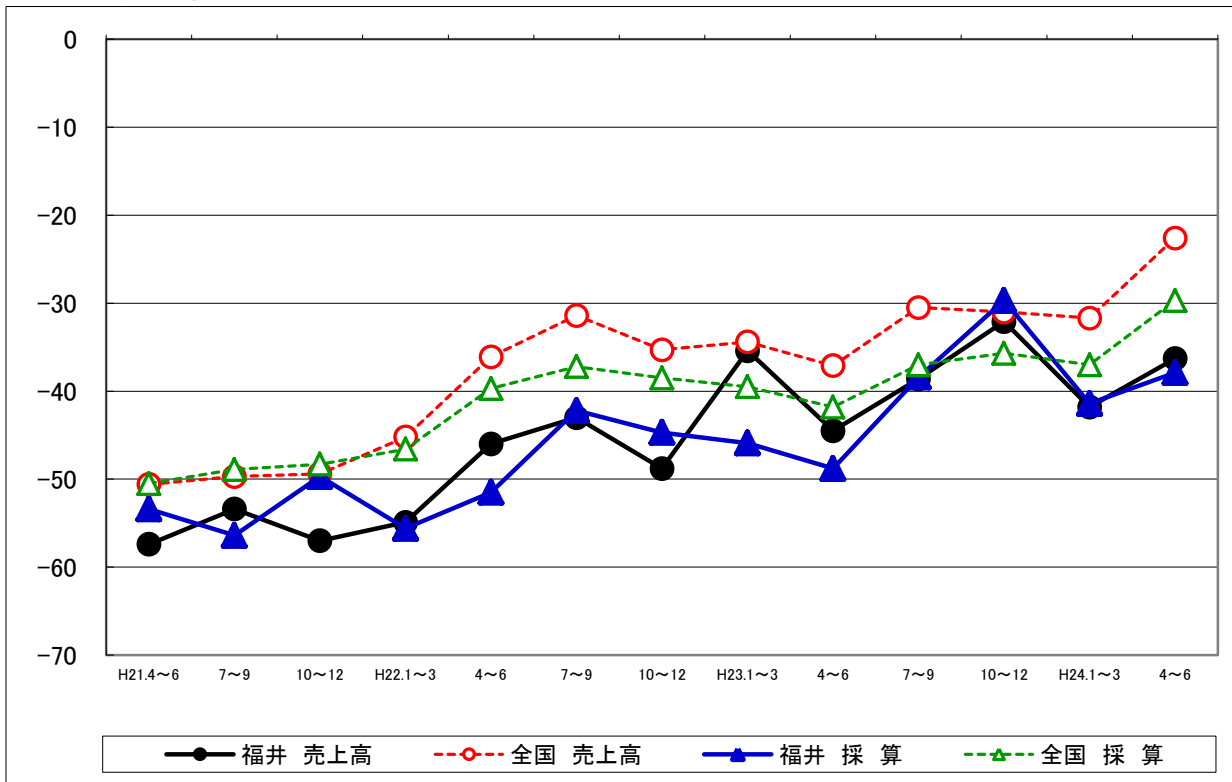
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.7~9	▲ 53.4	8.6	▲ 56.4	▲ 46.2	▲ 9.8	▲ 56.9
10~12	▲ 57.0	3.7	▲ 49.7	▲ 38.3	▲ 7.1	▲ 51.9
H22.1~3	▲ 54.9	2.5	▲ 55.6	▲ 43.8	▲ 8.5	▲ 53.5
4~6	▲ 46.0	4.4	▲ 51.5	▲ 36.4	▲ 13.2	▲ 51.6
7~9	▲ 43.0	8.9	▲ 42.2	▲ 30.2	▲ 12.0	▲ 42.9
10~12	▲ 48.8	8.3	▲ 44.7	▲ 34.0	▲ 8.2	▲ 42.3
H23.1~3	▲ 35.4	14.0	▲ 45.9	▲ 30.1	▲ 5.8	▲ 39.7
4~6	▲ 44.5	25.2	▲ 48.8	▲ 31.3	▲ 9.6	▲ 44.7
7~9	▲ 38.6	25.6	▲ 38.4	▲ 29.6	▲ 7.4	▲ 39.8
10~12	▲ 32.1	11.3	▲ 29.7	▲ 23.1	▲ 2.0	▲ 35.8
H24.1~3	▲ 41.8	14.5	▲ 41.4	▲ 31.9	▲ 4.7	▲ 41.4
4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9見通し	▲ 36.2	14.8	▲ 32.9	▲ 30.5	▲ 6.9	▲ 32.5



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成24年4-6月期の日本経済を概観すると、総じて足許の景気は回復傾向にある。ちなみに、企業部門では、ゴールデンウィークによる稼働日数の減少から、5月の鉱工業生産指数が前年割れとなったものの、緩やかな増産傾向に変わりはない。ただ、輸出は、中国向けの横ばいや欧州向けでの減少基調が続いており、外需の減速感が強まっている。こうした中、6月に発表した日銀短観によると、業況判断DIは、製造業で前回（3月）調査比3ポイント改善し▲1と上昇、非製造業でも上昇基調（前回調査比3ポイント上昇）を強めるなど、回復傾向を示している。また、家計部門も所得環境の改善が進んでおり、エコカー支援特需などを背景に個人消費が堅調な推移となった模様。

一方、福井県経済については、生産面で繊維、眼鏡枠の地場産業で弱い動きが見られるものの、電子部品・デバイス、化学等を中心に回復傾向を維持。個人消費は、品目によるバラツキがみられるものの、概ね横ばいで推移している。

こうした中、今期（H24年4-6月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目4項目で改善、2項目で悪化傾向を示した。ちなみに、改善項目は、売上高が前回調査（H24年3-6月期）の▲41.8から今期▲32.3へ、採算が前期▲41.4から今期▲29.9へ、資金繰りが前期▲31.9から今期▲22.0へ、業況が前期▲41.4から今期▲32.3へ、悪化項目は、仕入れ単価（逆指数）が前期14.5から今期17.6へ、従業員数が前期▲4.7から今期▲6.0へと悪化した。

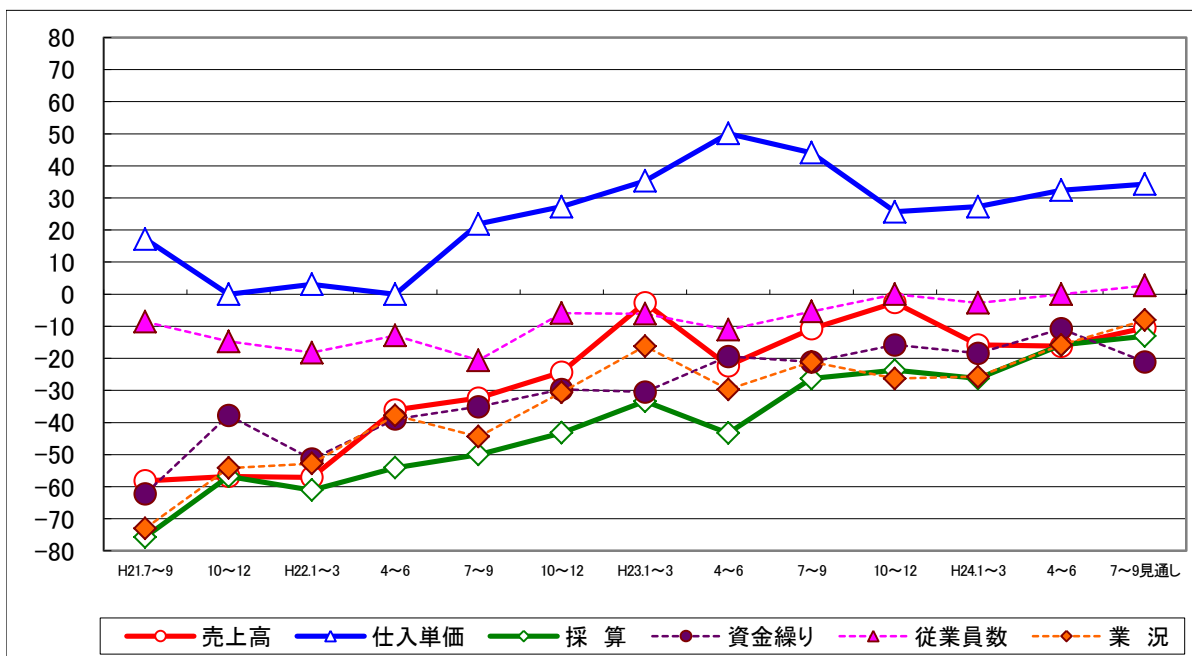
また、今後（H24年7-9月期）の見通しについては、仕入単価を除く5項目で悪化予測となっており、依然として実感の乏しい持ち直しが続くと思われる。

また、売上高と採算につき、そのDI値を全国と比較すると、全国（売上高▲22.6、採算▲29.7）、福井県（売上高▲36.3、採算▲37.9）ともに改善しているものの、その上昇幅は福井県が小さく、全国と比較した福井県の改善の遅れを示している。一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画9.1%に対し、実施が6.1%とやや下回ったものの、先行き（H24年7-9月期）については9.1%と僅かながら増加が期待される。

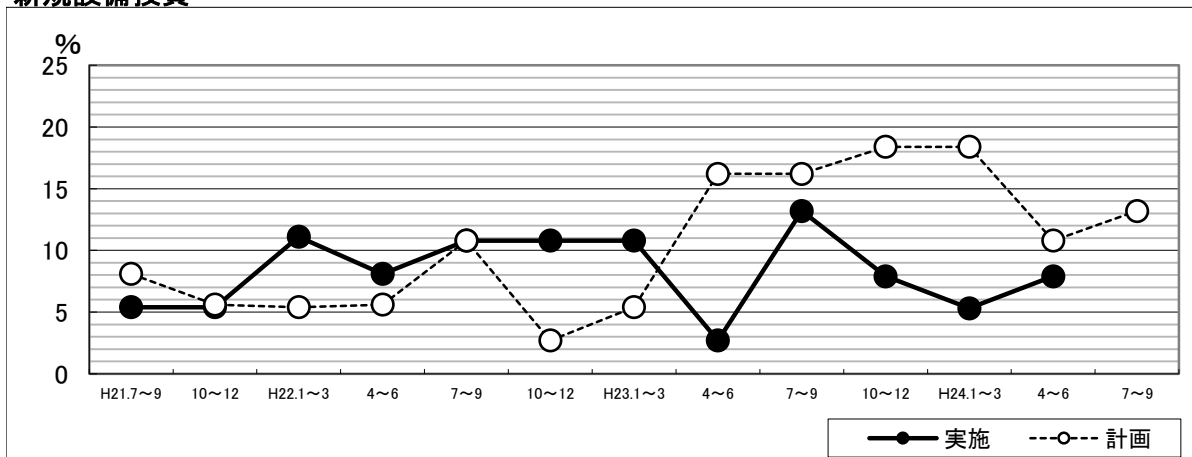
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

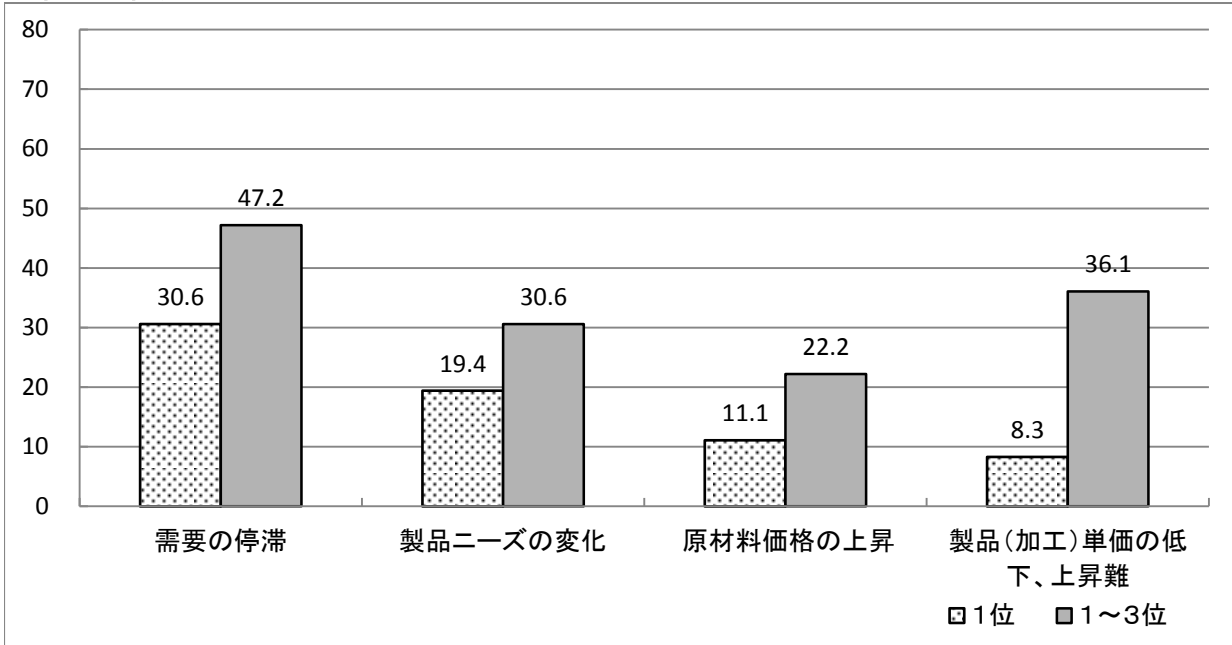
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.7~9	▲ 58.2	17.2	▲ 75.7	▲ 62.2	▲ 8.6	▲ 73.0
10~12	▲ 56.8	0.0	▲ 56.8	▲ 37.8	▲ 14.7	▲ 54.2
H22.1~3	▲ 57.1	3.1	▲ 61.1	▲ 51.4	▲ 18.2	▲ 52.8
4~6	▲ 36.1	0.0	▲ 54.1	▲ 38.9	▲ 12.9	▲ 37.8
7~9	▲ 32.4	21.9	▲ 50.0	▲ 35.1	▲ 20.6	▲ 44.4
10~12	▲ 24.3	27.3	▲ 43.2	▲ 29.7	▲ 5.9	▲ 30.6
H23.1~3	▲ 2.7	35.3	▲ 33.4	▲ 30.5	▲ 6.1	▲ 16.2
4~6	▲ 22.3	50.1	▲ 43.3	▲ 19.4	▲ 11.1	▲ 29.7
7~9	▲ 10.8	44.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 5.4	▲ 21.1
10~12	▲ 2.6	25.7	▲ 23.7	▲ 15.8	0.0	▲ 26.3
H24.1~3	▲ 15.8	27.3	▲ 26.3	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 25.7
4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9見通し	▲ 10.5	34.3	▲ 13.1	▲ 21.1	2.7	▲ 8.1



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・引き合いは多くありますが、商談成立は少なくなっています。
・現在、設備投資をしたため機械の入れ替え等で売上がありませんが、新しい機械を入れてもそれに見合う仕事の見通しがまだできていないため先は不安。旧台の仕事の引き合いの方が多いです。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業では既存衣料分野のテキスタイル、眼鏡枠工業などで弱い動きがみられるものの、繊維工業の非衣料分野（自動車関連などの産業資材）や、電子部品・デバイス（自動車、携帯電話）が順調に推移しているほか、化学工業も医薬品、化粧品分野を中心に高水準の生産を持続、また、プラスチック工業も建築部材などで順調な生産を維持するなど、総じてみれば回復の動きを強めている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すD I値6項目中、4項目で改善、2項目で悪化となった。ちなみに、改善項目は、採算（前期▲26.3→今期▲15.8）、資金繰り（前期▲18.4→今期▲10.8）、従業員数（前期▲2.7→今期0.0）、業況（前期▲25.7→今期▲15.8）。悪化項目は、売上高（前期▲15.8→今期▲16.2）、仕入単価（逆指数）（前期27.3→今期32.4）であった。また、先行き（H24年7-9月期）についても、売上高、採算、従業員数、業況の4項目で改善が進むものの、仕入れ単価、資金繰りの2項目では悪化予測となっている。

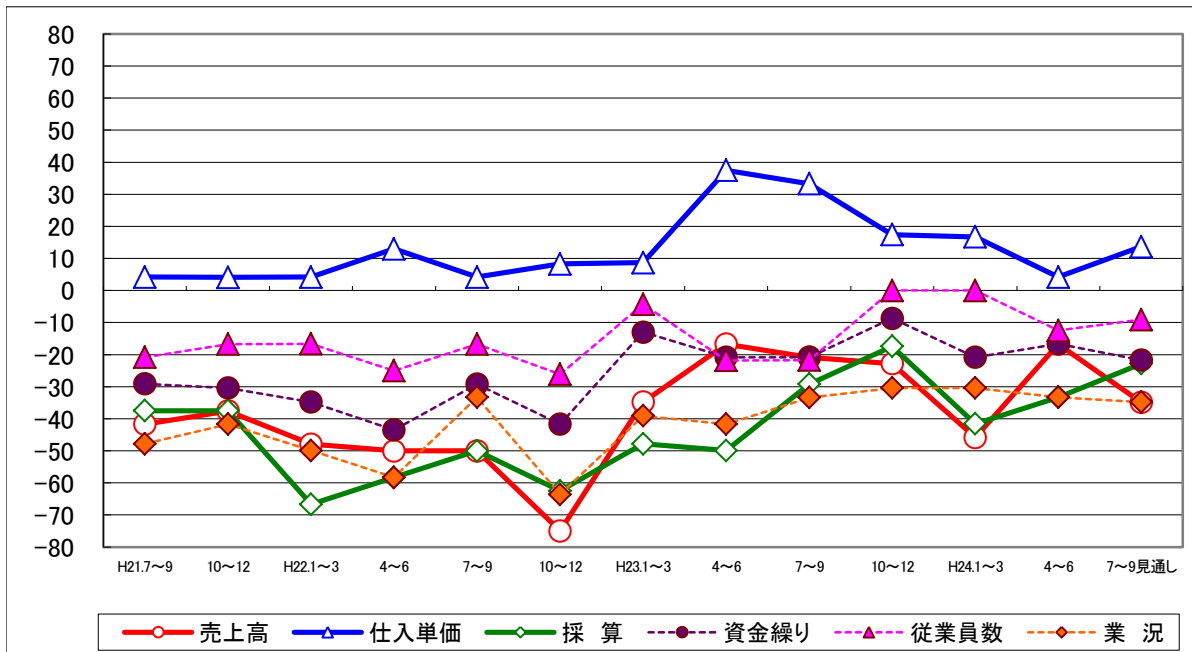
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画10.8%に対し、実施が7.9%とやや減少したものの、先行き（H24年7-9月期）については13.2%と増加が期待される。

その他、経営上の問題点については、前期に引き続き「需要の停滞」を指摘する企業が多く、1位に挙げた企業ウエイトが30.6%、1位～3位までに挙げた企業ウエイトも47.2%を占めている。次いで、「製品ニーズの変化」への指摘も多く、1位に挙げた企業ウエイトが19.4%、1位～3位までに挙げた企業ウエイトも30.6%となった。また、「製品（加工）単価の低下、上昇難」については、1位～3位までに挙げた企業ウエイトが36.1%と「需要の停滞」に次ぐウエイトとなっており、今後の動向が懸念される。

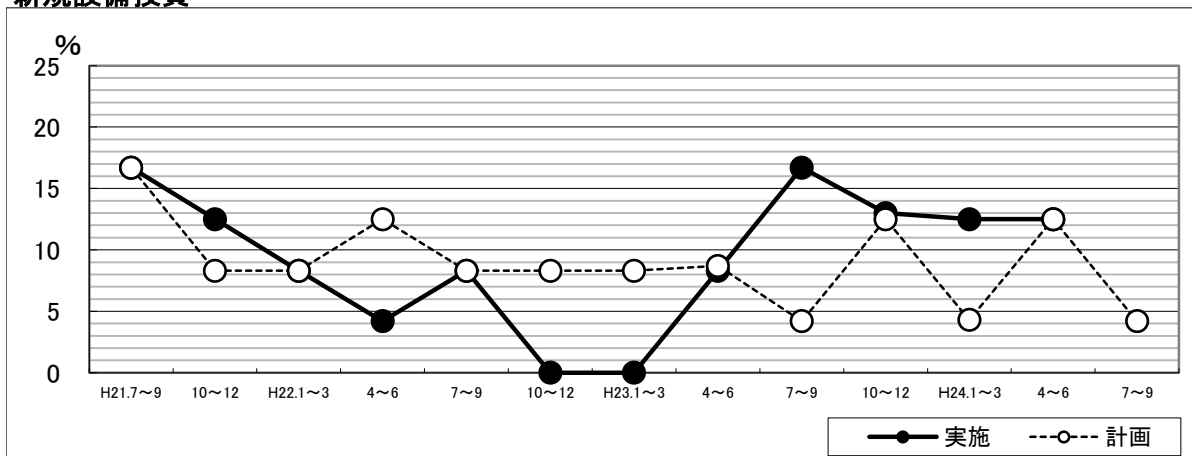
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

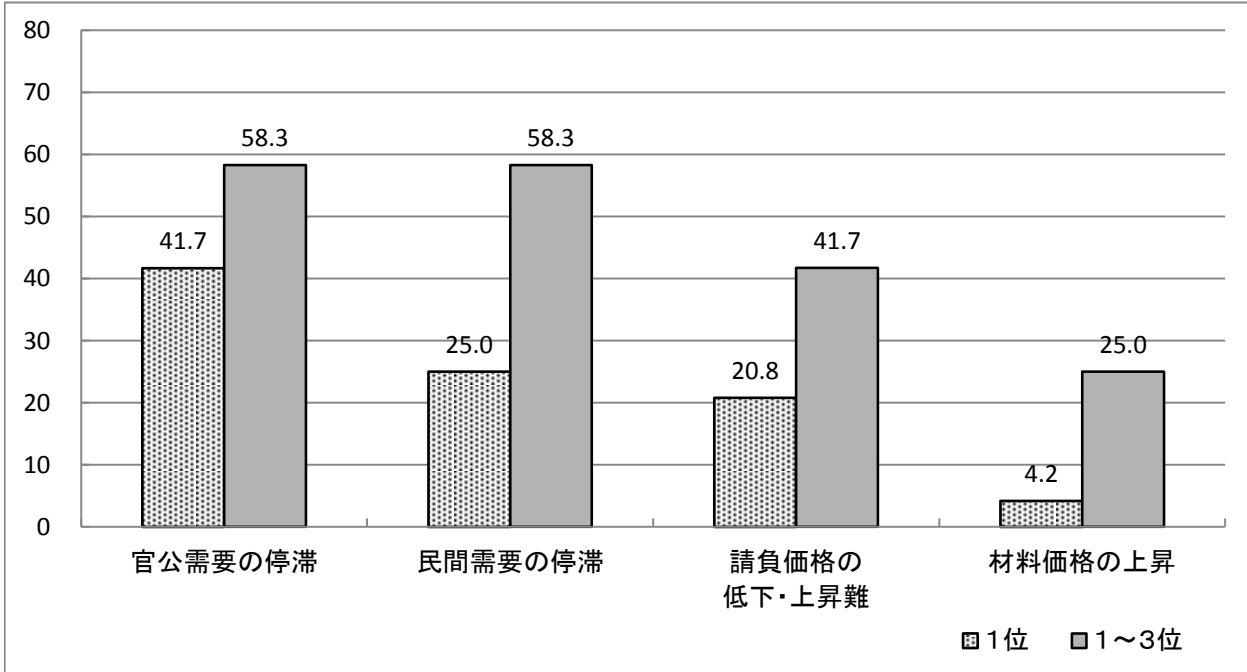
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.7~9	▲ 41.7	4.2	▲ 37.5	▲ 29.1	▲ 20.8	▲ 47.8
10~12	▲ 37.6	4.1	▲ 37.5	▲ 30.4	▲ 16.7	▲ 41.7
H22.1~3	▲ 47.9	4.2	▲ 66.7	▲ 34.8	▲ 16.6	▲ 49.9
4~6	▲ 50.0	13.0	▲ 58.3	▲ 43.5	▲ 25.0	▲ 58.3
7~9	▲ 50.0	4.2	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 33.3
10~12	▲ 75.0	8.3	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 26.1	▲ 63.6
H23.1~3	▲ 34.8	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 39.1
4~6	▲ 16.7	37.5	▲ 49.9	▲ 20.8	▲ 21.8	▲ 41.7
7~9	▲ 20.8	33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 33.4
10~12	▲ 22.8	17.4	▲ 17.4	▲ 8.7	0.0	▲ 30.4
H24.1~3	▲ 45.8	16.7	▲ 41.6	▲ 20.8	0.0	▲ 30.4
4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9見通し	▲ 34.9	13.7	▲ 22.8	▲ 21.7	▲ 9.1	▲ 34.8



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・公共工事の発注減は続くと思われ、さらに競争の悪化も続くと思われる。
- ・官公民間共に工事の減少に伴い請負単価が低下。これに伴い利益が減少している。その上、経費の上昇等があり、受注者側は大変厳しい状況のため、単価の上昇を検討してほしい。

建設業の景況

福井県内における平成24年4-6月期の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は、累計で329.52億円の前年同期比12.7%増、発注件数でも同614件の前年同期比37.9%の増加となった。ちなみに発注者別では、国家工事で24.66億円の前年同期比55.6%減と前年実績を大きく下回ったものの、県関連工事（67.60億円の同34.7%増）、独立行政法人関連工事（141.78億円の同49.9%増）などでは前年同期の実績を上回っている。一方、住宅投資については、4-5月累計で、前年同期比19.1%増の661戸となっている。利用関係別では、持家が同21.1%増の476戸、貸家が同40.7%増の121戸と概ね順調な推移となった。

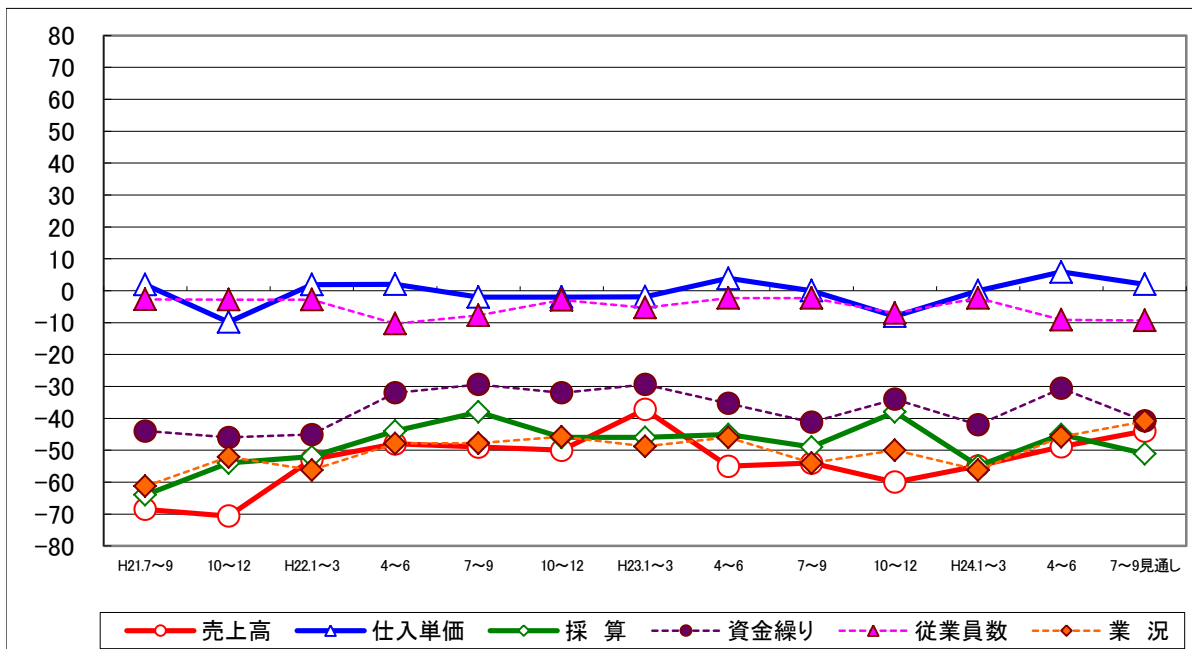
こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すD I値6項目中、従業員数（前期0.0、今期▲12.5）、業況（前期▲30.4、今期▲33.3）で悪化したものの、売上高（前期▲45.8、今期▲16.7）、仕入単価（逆指数）（前期16.7、今期4.2）、採算（前期▲41.6、今期▲33.3）、資金繰り（前期▲20.8、今期▲16.6）の4項目で改善傾向を示している。また、先行き（H24年7-9月期）については、売上高（▲34.9）、仕入単価（逆指数）（13.7）、資金繰り（▲21.7）、業況（▲34.8）の4項目で悪化予測となった。

一方、新規設備投資については、計画（12.5%）、実施（12.5%）ともに同水準となったが、来期（H24年7-9月期見通し）は4.2%と低調な計画が立てられている。最後に、経営上の問題点については、これまで同様、「官公需要の停滞」を指摘する回答が最も多く、1位に挙げた企業ウエイトが41.7%、1位~3位に挙げた企業も58.3%に達した。また、「民間需要の停滞」については、1位に上げた企業ウエイトは25.0%ながら、1位~3位に挙げた企業ウエイトでは58.3%と「官公需要の停滞」と同水準に達している。その他、「請負価格の低下・上昇難」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイトが20.8%、1位~3位に挙げた企業ウエイトが41.7%となっている。

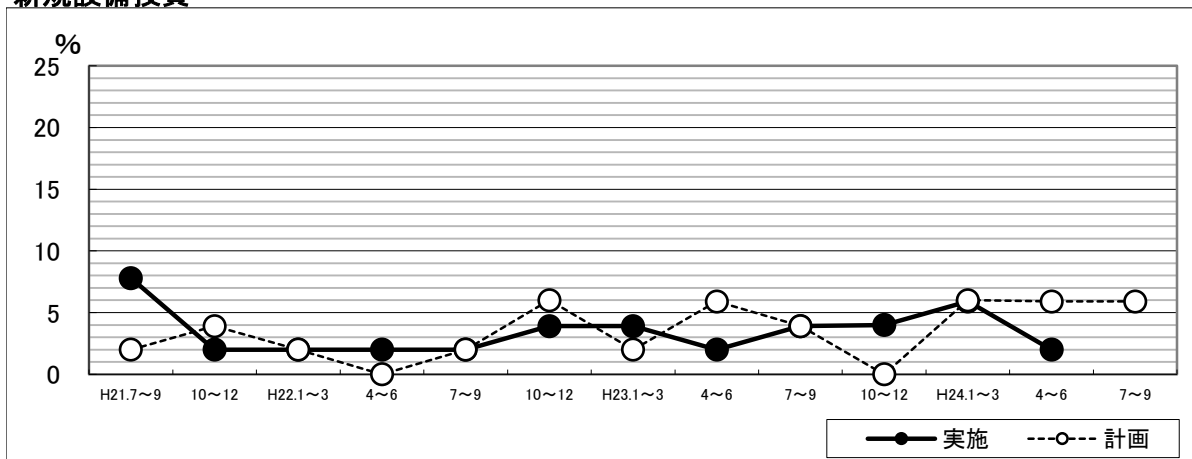
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

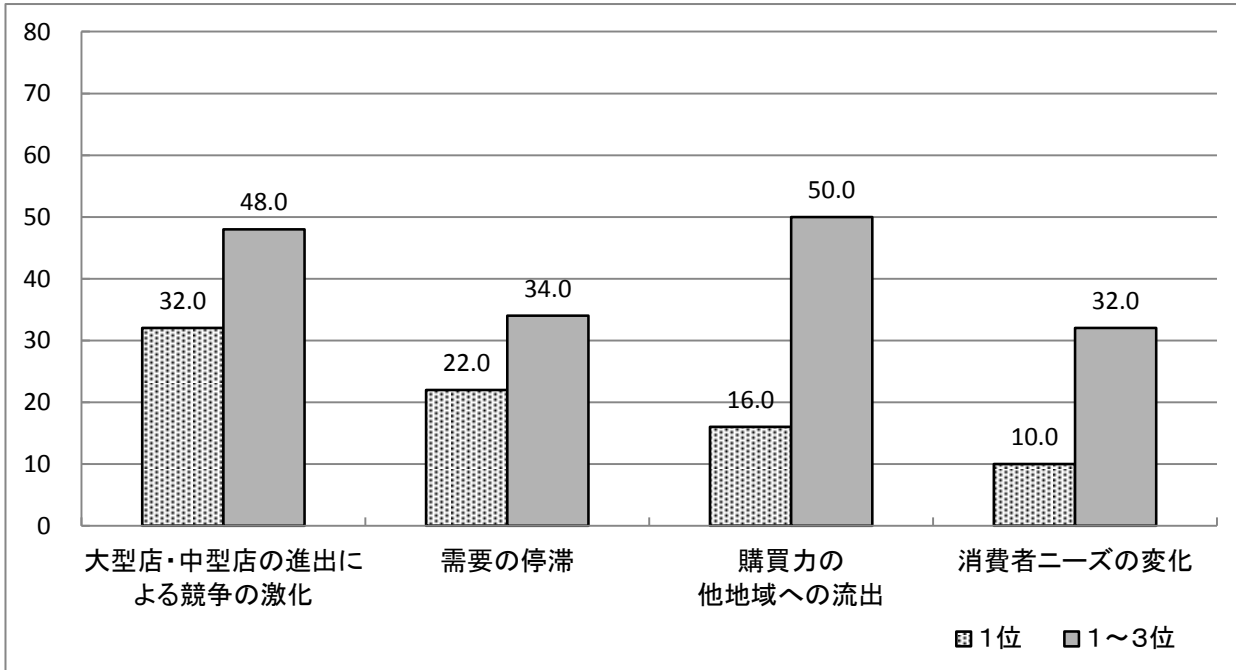
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.7~9	▲ 68.5	1.9	▲ 64.0	▲ 44.0	▲ 2.7	▲ 61.3
10~12	▲ 70.6	▲ 9.8	▲ 54.0	▲ 46.0	▲ 2.8	▲ 52.1
H22.1~3	▲ 52.9	1.9	▲ 52.0	▲ 45.1	▲ 2.8	▲ 56.2
4~6	▲ 48.0	2.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 10.3	▲ 47.9
7~9	▲ 49.0	▲ 2.0	▲ 38.0	▲ 29.4	▲ 7.7	▲ 47.8
10~12	▲ 50.0	▲ 2.0	▲ 46.0	▲ 32.0	▲ 2.9	▲ 45.8
H23.1~3	▲ 37.2	▲ 1.9	▲ 46.0	▲ 29.4	▲ 5.3	▲ 48.8
4~6	▲ 55.0	3.9	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 2.3	▲ 46.0
7~9	▲ 54.0	0.0	▲ 49.0	▲ 41.2	▲ 2.3	▲ 54.0
10~12	▲ 60.0	▲ 8.0	▲ 38.0	▲ 34.0	▲ 7.0	▲ 50.0
H24.1~3	▲ 54.9	0.0	▲ 54.9	▲ 42.0	▲ 2.3	▲ 56.2
4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9見通し	▲ 44.0	2.0	▲ 51.1	▲ 40.8	▲ 9.3	▲ 40.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・老朽化により設備投資が必要となるが、売上が落ちているなか借入をしてまで継続していくかが問題。
- ・大型店等の競争に弱い小売店是对応できず低下の一方です。後継者もいないので競争意欲も湧かずです。

小売業の景況

近畿経済産業局が発表した平成24年の県内大型小売店販売額推移（百貨店＋スーパー）をみると、全店ベースで4月が前年同月比4.4減の56.6億円、5月が同3.7%減の55.5億円と、弱い動きが続いている。

この背景には、年金などの将来不安に加えて、ボーナスを中心とした実質所得の伸び悩み、恒常化する雇用不安などの問題に加え、東北産食材を中心とする原材料供給体制の未整備、それを代替する海外品のコスト上昇等の問題が顕在化していることは言うまでもない。

こうした状況下、今回の景況調査では、6項目のD I 値のうち4項目で改善、2項目が悪化を示した。ちなみに、改善した項目をみると、売上高が前期の▲54.9から今期▲48.9へ、採算が前期▲54.9から今期▲45.1へ、資金繰りが前期▲42.0から今期▲30.6へ、業況が前期▲56.2から今期▲45.8へと、低水準ながら改善している。また、悪化項目は、仕入単価（逆指数）で前期0.0から今期5.9へ、従業員数も前期▲2.3から今期▲9.1へ悪化が進んだ。一方、今後の見通し（H24年7-9月期）についても、採算（▲51.1）、資金繰り（▲40.8）、従業員数（▲9.3）の3項目で悪化予測が立てられている。

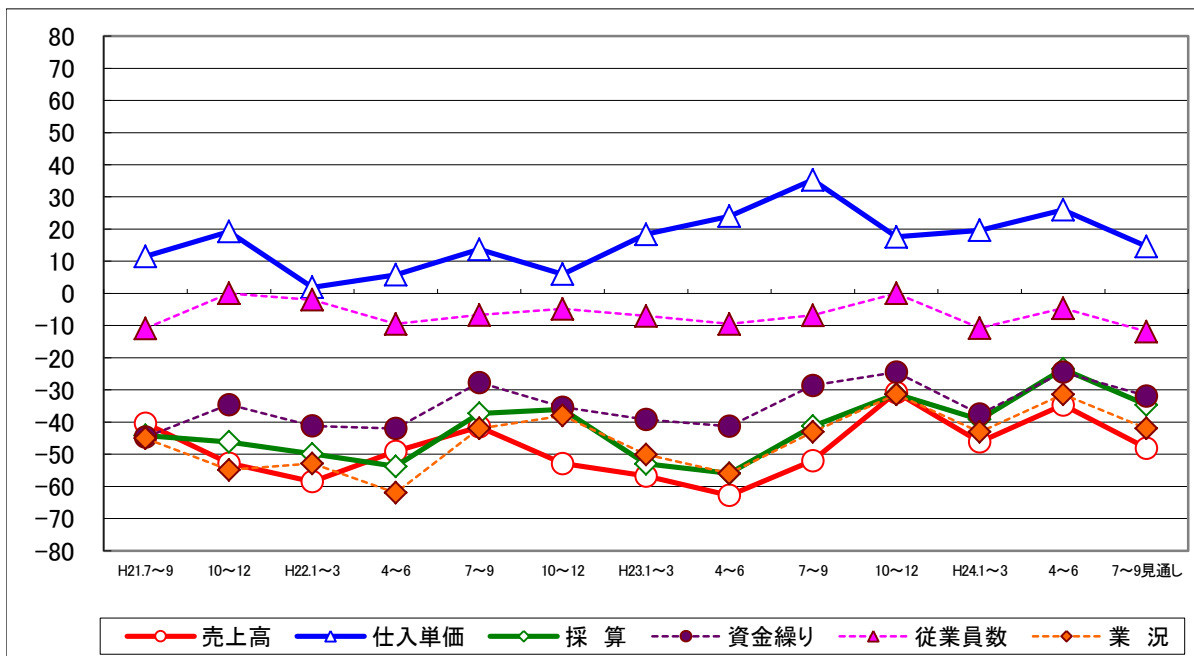
一方、新規設備投資については、計画5.9%に対し実施が2.0%と、実施が計画を下回ったものの、来期の計画については今期と同水準の計画が予定されている。

最後に、経営上の問題点については、前期同様、「大型店・中型店の進出による競争の激化」を1位に指摘する企業ウエイトが32.0%、1位～3位に指摘する企業ウエイトも48.0%みられたほか、「需要の停滞」への指摘も1位に指摘する企業ウエイトが22.0%、1位～3位に指摘する企業ウエイトも34.0%みられた。また、「購買力の他地域への流出」（1位に指摘した企業ウエイト16.0%、1位～3位の企業ウエイト50.0%）、「消費者ニーズの変化」（1位に指摘した企業ウエイト10.0%、1位～3位の企業ウエイト32.0%）への指摘も比較的多い。

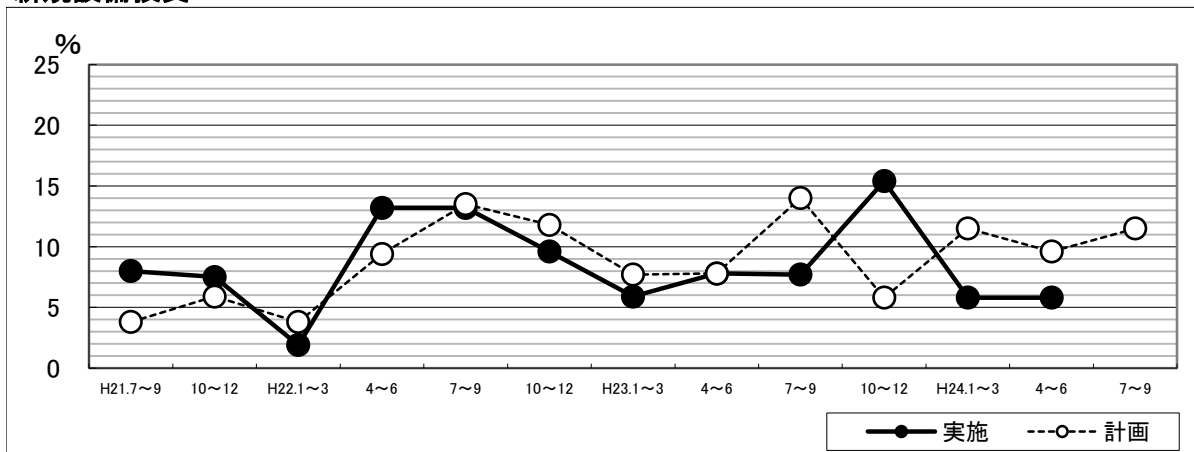
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

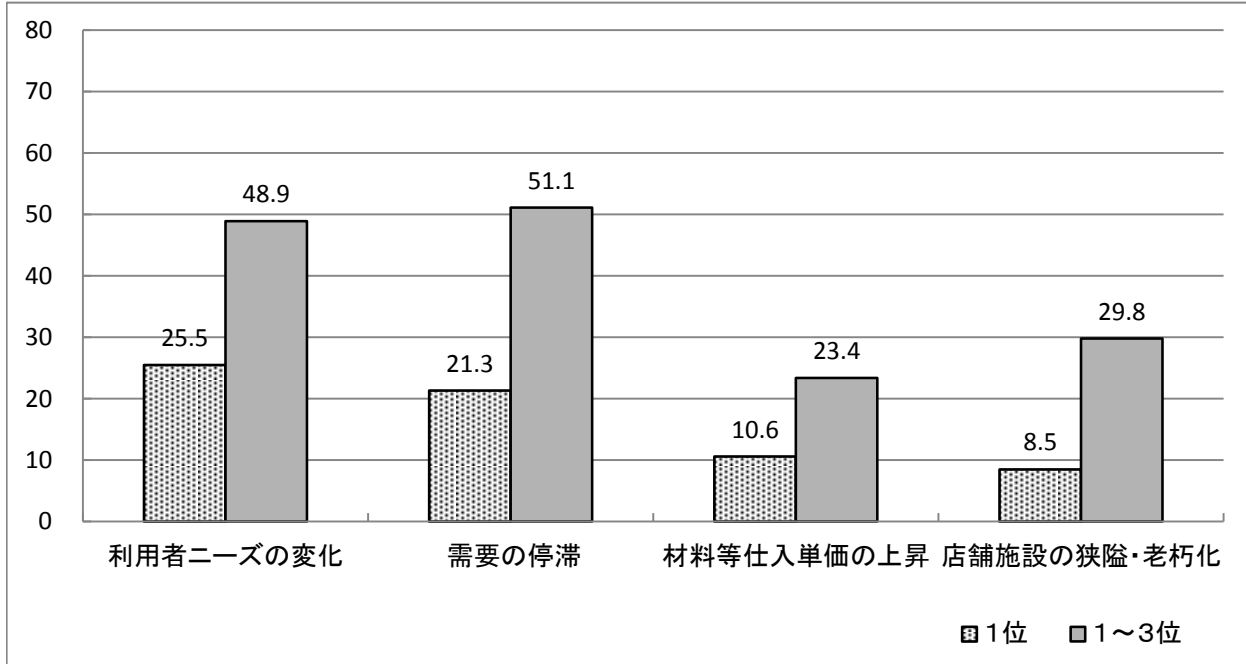
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H21.7~9	▲ 40.4	11.5	▲ 44.2	▲ 44.7	▲ 10.9	▲ 45.1
10~12	▲ 52.8	19.2	▲ 46.2	▲ 34.6	0.0	▲ 54.9
H22.1~3	▲ 58.5	1.9	▲ 49.9	▲ 41.2	▲ 2.0	▲ 52.9
4~6	▲ 49.1	5.8	▲ 53.8	▲ 42.0	▲ 9.5	▲ 62.0
7~9	▲ 41.5	13.7	▲ 37.3	▲ 27.7	▲ 6.7	▲ 42.0
10~12	▲ 52.9	6.0	▲ 36.0	▲ 35.4	▲ 4.8	▲ 38.0
H23.1~3	▲ 56.8	18.4	▲ 53.0	▲ 39.2	▲ 7.0	▲ 50.1
4~6	▲ 62.8	24.0	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 9.5	▲ 56.0
7~9	▲ 52.0	35.3	▲ 41.3	▲ 28.6	▲ 6.8	▲ 43.1
10~12	▲ 30.8	17.6	▲ 31.3	▲ 24.5	0.0	▲ 31.4
H24.1~3	▲ 46.2	19.6	▲ 39.2	▲ 37.5	▲ 10.8	▲ 43.1
4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9見通し	▲ 48.1	14.6	▲ 34.7	▲ 31.9	▲ 11.9	▲ 42.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・総客数の減少が第一。高齢化による減少。新規の取得が難しい。客単価を上げる方法を考えたり、来店率を上げるように努力している。交通の不便さがネック。送迎が必要なのも問題がある。地域性は考えさせられる。
- ・お客様を飽きさせないためのキャンペーン・取り組みに気を付けて企画しなければならない。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する5月の第3次産業活動指数（総合、季節調整値、2005年＝100）は99.1で、前月比0.7%と5か月ぶりの上昇となった。この要因は、エコカー補助金の効果で自動車販売が好調に推移したことや、エアコンなど省エネ型の夏物家電の売れ行きが好調であったことによる。

業種別では、卸売業、小売業、医療、福祉、情報通信業、運輸業、郵便業、生活関連サービス業、娯楽業、学術研究、専門・技術サービス業、その他サービス業（公務等を除く）、複合サービス事業で上昇。金融業、保険業、電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業、物品賃貸業、宿泊業、飲食サービス業、学習支援業で低下している。

こうした中、今回の景況調査では、D I 値6項目中、仕入単価を除く5項目で改善傾向を示した。ちなみに、前期と今期を比較すると、売上高（▲46.2→▲34.7）、仕入単価（逆指数）（19.6→26.0）、採算（▲39.2→▲23.5）、資金繰り（▲37.5→▲24.5）、従業員数（▲10.8→▲4.6）、業況（▲43.1→▲31.4）となっている。ただ、先行き（H24年7-9月期）については、今期とは逆に、仕入単価を除く5項目が悪化予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が5.8%と低い実施結果となったが、先行きについては11.5%とやや増加が見込まれる。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト25.5%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト48.9%と高い水準となったほか、恒常的な問題である「需要の停滞」への指摘も、1位に指摘した企業ウエイト21.3%、1位～3位に指摘した企業ウエイト51.1%と依然高いウエイトを占めた。また最近の傾向として、前回調査と同様、「需要の停滞」や「利用者ニーズの変化」を問題とする企業が増加していることがうかがえる。

全国・福井景気動向 平成24年4月～6月（対前年同期比：D I 値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 22.6	19.1	▲ 29.7	▲ 20.1	▲ 2.7	▲ 25.9
	製造業						
	DI値	▲ 14.9	28.1	▲ 23.0	▲ 17.0	1.9	▲ 16.9
	建設業						
	DI値	▲ 17.7	26.7	▲ 26.4	▲ 13.1	▲ 3.6	▲ 18.6
	小売業						
	DI値	▲ 37.6	6.9	▲ 39.3	▲ 4.4	▲ 38.8	▲ 28.3
	サービス業						
	DI値	▲ 19.5	21.0	▲ 27.5	▲ 3.6	▲ 24.2	▲ 18.4
福井	全体						
	DI値	▲ 36.3	16.6	▲ 37.9	▲ 29.7	▲ 7.5	▲ 37.3
	製造業						
	DI値	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
	建設業						
	DI値	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
	小売業						
	DI値	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
	サービス業						
	DI値	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

